頼りにならない奴はいらない！
―ツミのまわりで繁殖しなくなったオナガ―

○植田睦之（NPO 法人 バードリサーチ）

1990 年代前半，ツミの巣のまわりには必ずオナガが集まってきて，繁殖していました。ツミが巣の周囲 50m程度の範囲をハシブトガラスなどの捕食者から防衛するため，オナガはツミの巣の周囲で繁殖することで，卵やヒナの捕食を避けられます。そのために，ツミの巣のまわりに集まってきて繁殖しているのだと考えられています。ところが，近年，ツミの巣の周囲でオナガがほとんど繁殖しなくなっていることに気づきました。そこで，その状況と考えられる原因について，2005 年と 2006 年に調査を行ないました。

調査を行なったのは東京都中西部の住宅地に点在する林です。２年間に９巣のツミの巣を発見したのですが，そのうち 50m以内にオナガの巣があったのは２巣のみでした。

ツミのカラスに対する防衛行動を調べたところ，1990 年代前半は 50m以内にカラスが近づくと必ず攻撃していたのが，今回の調査では巣から 10m以内にまで近づけば高頻度で攻撃したものの，40～50mの距離では，警戒声を発することがある程度で，直接的な防衛行動は観察されませんでした。

巣から 50m以内の位置に模擬巣を設置し捕食圧を推定したところ，1990 年代前半は，捕食されることが，まったくなかったのに対して，今回の調査では，67.5%もの巣が捕食を受けました。

調査地ではハシブトガラスが増加しており，それも一因となってツミが巣の防衛を必要最小限にしかしなくなったと考えられます。そのため，ツミの巣の周辺で繁殖しても捕食を避ける効果はあまり望めなくなり，その結果，オナガはツミの巣のまわりであまり繁殖しなくなったのではないかと考えられます。